

## 愛媛の生き物紹介

### 暗闇への誘い — 地下世界に適応した昆虫 メクラチビゴミムシ —

地中には、地表から流れ込む雨や地下水の通り道が、亀裂や破碎帯として深くまで続いています。この隙間は日光の届かない完全な暗黒です。梅雨時期で夜の昆虫といえば、ゲンジボタルのような光る昆虫を想像されると思います。ただ、このような光信号を眼で受信する方法は、地中では岩や石が遮蔽物となりうまく受け取れません。また、地中は深くなるほど落ち葉などの有機物が少なくなり、それらの分解者である微小な昆虫の生息密度も減少します。そのため、地中に生息する肉食性の昆虫は、少ないエサでも生きていけるようになっていきます。

さて、今回登場するメクラチビゴミムシ(写真)は、カトムシやマイマイカブリのように硬い表皮に覆われた甲虫の一種で、チビゴミムシと呼ばれる小さなゴミムシの仲間になります。もともと地表を歩き回り、時には翅を広げて飛んで移動することができましたが、地中で生活するうちに使われない眼は退化消失しました。また、狭い場所では飛ぶ必要もないため、飛翔に重要



イシハラメクラチビゴミムシ *Ishikawatrechus ishiharai* S. UENO, 1994. 石鎚山周辺に固有のメクラチビゴミムシで、世界中で四国にしか生息していない。

な後翅も退化して飛べず、前翅も左右が癒着して開きません。代わりに、触覚や嗅覚を発達させたことで、岩だらけの暗闇でもぶつかるとなく、目にも止まらぬ速さで滑らかに走り抜けることができます。

(研究員 原有助)

## お知らせ

### アカミミガメとアメリカザリガニが 条件付特定外来生物に指定されました。



アカミミガメとアメリカザリガニは、生態系等に大きな被害を与えることから、外来生物法に基づき条件付特定外来生物に指定され、令和5年6月1日から生きた個体の野外への放出や、販売・購入等が法律で禁止されました。

#### 手続きなしでできること



飼育

捕獲

無償譲渡

#### 法律で禁止されること

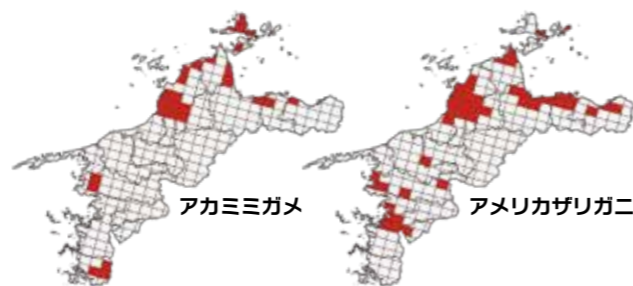


放出

販売・購入

#### 最後まで責任を持って飼育し続けてください!

アカミミガメとアメリカザリガニは、下図のとおり愛媛県内に広く分布しています。これ以上の分布拡大を防ぐためにも、飼育している人は決して野外に逃がさないでください。



アカミミガメ

アメリカザリガニ

#### 環境省アメリカザリガニ・アカミミガメ相談ダイヤル

ナビダイヤル 0570-013-110 IP電話等 06-7739-7899  
受付時間 AM9:00~PM5:00 (12/29~1/3 は除く)

編集・発行

愛媛県立衛生環境研究所 生物多様性センター  
〒791-0211 愛媛県東温市見奈良 1545番地4  
TEL: 089-948-9678 FAX: 089-948-9677  
URL: <https://www.pref.ehime.jp/h25115/biodiversity>  
Mail: [seibutsu-cnt@pref.ehime.lg.jp](mailto:seibutsu-cnt@pref.ehime.lg.jp)

編集後記

外来生物法の改正によりアカミミガメ、アメリカザリガニが条件付特定外来生物に指定され、野外に放したり逃がしたりすることが禁止されました。飼育されている方は、今一度飼育容器等の点検をしていただき、アカミミガメ等が逃げ出すことがないように、ご注意ください。

# えがお 愛顔の生きもの 100年レター

愛媛県生物多様性  
ニュースレター

vol. 13

(令和5年7月)

## ウンラン 再発見された絶滅危惧種

ウンラン(愛媛県: 絶滅危惧ⅠA類)は、海岸の砂地に生育するオオバコ科の多年草で、緑白色の肉厚の葉を持ちます。開花期は8~10月頃で、白く中央部が黄色の花を咲かせます。秋以降は出芽が減り、葉が黄化します。冬期は地上部のほとんどが無くなりますが、4月頃から再び出芽します。

愛媛県内では、新居浜市、今治市、西条市、松山市、伊予市で記録がありましたが、海岸の護岸改修等で絶滅したと考えられていました。しかし2006年に、地元

研究者によって今治市で再確認されたことから、現在は絶滅危惧ⅠA類に下方修正されています。自生地の砂浜は、台風等の影響を受けやすく絶滅の危険性が高いことから、愛媛県野生動植物の多様性の保全に関する条例において特定希少野生動植物に指定され、採集等が禁止されています。また、自生地は同条例で保護区に指定されており、開発行為等が禁止されています。

(主任研究員 成松克史)



ハマゴウと混生するウンラン



開花状況

<参考文献> 愛媛県(2014)愛媛県レッドデータブック2014-愛媛県の絶滅のおそれのある野生生物-

## CONTENTS

- 【特集】  
海岸植物の観察
- 【愛媛の生き物紹介】  
暗闇への誘い — 地下世界に適応した昆虫 メクラチビゴミムシ —
- 【お知らせ】  
アカミミガメとアメリカザリガニが  
条件付特定外来生物に指定されました。

## 特集 海岸植物の観察



愛媛県の海岸は、総延長が約 1700km(全国第5位)と長く、種類も砂浜海岸、泥浜海岸、岩石海岸など、様々な基質に富んだ海岸があることも特徴です。

砂浜海岸や泥浜海岸は、海水によって運ばれた堆積物で構成され、岩石海岸は主に波の侵食によって形成された海岸です。このうち、砂浜海岸は、海水浴やキャンプなど私たちの身近な憩いの場所として広く利用されています。また、泥浜海岸は干潟となって現れる海岸で、近年貴重な動植物が生息していることがわかってきました。

それぞれの海岸にはその環境に適応した植物が生育しており、砂浜海岸に生育する植物は海岸植物、泥浜海岸に生息する植物は塩生植物と呼ばれます。また岩石海岸に生育する植物は海岸崖地植物と呼ばれます。

ここでは砂浜海岸で観察できる主な海岸植物を紹介します。(主任研究員 成松克史)

### <海岸植物の特徴>

砂浜に生育する植物は、一般的な植物と比較して葉が厚いことが特徴です。また光沢がある葉や毛で覆われている葉は、直射日光を防ぐ役割があります。土壌水分に乏しいことから、多くの植物は根系が発達しています。種子は海流によって運ばれる種が多く、これらの種子や果実は海水に浮くことができます。また、海岸植物の種子は内陸の草本植物よりも大きいという特徴もあります。限られた栄養条件で発芽・定着率を高める進化といえます。



【参考文献】  
愛媛県の海岸事業について 愛媛県土木部港湾海岸課  
<https://www.pref.ehime.jp/h40500/5742/kaigan/kaigan.html>  
中西弘樹(2020) フィールド版日本の海岸植物図鑑 トンボ出版

## 県内で観察される主な海岸植物



### ハマゴウ

県内の海岸に広く分布しています。ほふく性の落葉矮小低木で植物全体に芳香があります。7~8月に青紫色の花が咲き、果実は海水に2か月以上浮くことができます。



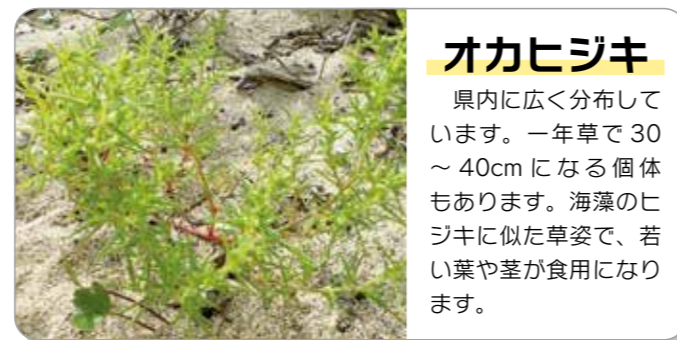
### コウボウムギ

県内の海岸に分布しますが、やや局所的で、常緑の多年草で高さは10~15cm。5~7月に麦に似た花穂を付けます。地下茎が増えて群落を作ります。地下に残った葉鞘が繊維状になることから、弘法大師の筆に例えて和名がつけられました。



### ハマエンドウ

県内の海岸に広く分布しています。多年生で草姿はエンドウに似ています。5~6月に赤紫色の花が咲き、のちに青紫色に変化します。種子は海水に浮いて海流散布によって移動します。



### オカヒジキ

県内に広く分布しています。一年草で30~40cmになる個体もあります。海藻のヒジキに似た草姿で、若い葉や茎が食用になります。



### ハマヒルガオ

つる性の茎が地を這うように広がります。5~6月頃に薄桃色のアサガオのような漏斗状の花が咲きます。種子は海水に浮いて海流散布によって移動します。



### ハマダイコン

県内に広く分布しています。春先に開花し、夏には枯れます。果実は数珠状になり、種子は海水に浮いて海流散布によって移動します。



### カワラサイコ

(愛媛県準絶滅危惧種)

県内の分布は局所的で、低く放射状に羽状の葉が広がります。6~8月にかけて茎の先端に10~15mmの黄色い5弁花を付けます。



### アメリカネナシカズラ(外来生物)

愛媛県では1968年に初確認されました。海浜以外にも分布しており、一見すると、黄色のテグスの様に見えますが、1年生の寄生植物で寄主にからみつき、寄生根から養分を吸収します。種子は50年以上発芽能力があり、動物の胃中でも生存します。

在来種のハマネナシカズラは環境省絶滅危惧Ⅱ類で、愛媛県での確認記録もありますが、現在の生育状況は不明です。



### ハマボウフウ

県内に広く分布しています。常緑の多年草で、低く放射状に広がる葉にカリフラワーのような白い花(複散形花序)を付けます。果実は2か月以上海水に浮くことができます。



### ナミキソウ(愛媛県特定希少野生動植物)

(愛媛県絶滅危惧ⅠB類)

現在確認されている県内の自生地は1地点のみです。細長い地下茎から3月頃に芽出し、草高10~40cm。姿はハープ類のミントに似ています。6~9月に紫色の唇形花が咲きます。



### ハマビシ(愛媛県特定希少野生動植物)

(環境省絶滅危惧ⅠB類・愛媛県絶滅危惧ⅠA類)

県内の分布は限定的です。一年草(越年草)で生育状況の年次間差が大きい種です。6月頃に芽出し、茎は四方を這うように伸びます。△カテ状の葉で黄色の花が咲き、トゲがある実を付けます。



### コマツヨイグサ(外来生物)

海岸以外にも分布しています。日本への侵入は1910年代前後とされています。花は道端で見られるマツヨイグサに似ていますが、直立せず、地面を這うように伸びます。

【参考文献】  
中西弘樹(2020) フィールド版日本の海岸植物図鑑 トンボ出版  
林弥栄・門田裕一・平野隆久 山溪ハンディ図鑑野に咲く花増補改訂新刊 山と溪谷社  
愛媛県(2014) 愛媛県レッドデータブック2014 - 愛媛県の絶滅のおそれのある野生生物 -